

1. 新渡戸夫人ゆかりのハルニレ（エルム） 苗の提供

令和元年 6 月 22 日、恵迪寮同窓会総会において、新渡戸稲造夫人メリー氏寄贈のハルニレ（英名：エルム）ゆかりのハルニレ苗が紹介され、出席者は記念の土産として苗をそれぞれ持ち帰った。

- ・ 種子採取場所：北大本部前ハルニレ直下
- ・ 種子採取～育苗期間：平成 26 年 5 月～令和元年 6 月
- ・ 種子採取・育苗・管理者：野本 健（昭和 47 入寮）
- ・ 提供苗：
 - ハルニレ苗大：約 40～50 cm（白いプランター） 17 本
 - ハルニレ苗小：約 20～30 cm（黒いプランター） 35 本
 - ハルニレ種子：10 袋（令和元年 5 月新たに採取）

北大正門を入り本部前には、1905 年（明治 38 年）春、新渡戸稲造夫人メリー氏により寄贈され、宮部金吾教授の細心の注意の下、路傍樹として北大構内各所に植樹されたハルニレのうち 5 本が聳え立つ（詳細は、【2. 北大本部前の新渡戸稲造夫人寄贈のハルニレ（エルム）】参照）。

この樹齢約 120 年の大樹直下の種子（*）を、野本健君が細心の注意の下、実生から育苗・管理し苗として育んできたものである（詳細は、【3. ハルニレ種子からの育苗日誌】参照）。

*：ハルニレは風で膨大な量の種子を落下させ、風に舞うため、他のハルニレの種子の混在の可能性もゼロではないが、立地からみてその可能性は少ないとみられる。なお、証明書では、「新渡戸稲造夫人寄贈のハルニレの大樹直下の地上に落下せし種子を採取し」育てた苗であることを証明している（pdf：証明書）。

なお、この苗が学府のエルムの森のように育ち雄々しく聳える大樹とならんことを期待する。ただし、適切な環境、的確な管理および相応の愛情によっては、一般の庭では大きく育ちすぎる場合もあるため植樹場所等には十分配慮されたし（取り扱い説明書参照）。